

■伝統的建物などの修景基準の解説

平野郷の歴史や文化を今に伝える各時代の伝統的建物もつ多様な様式・特徴を受けつぎ、これらを活かしつつ機能に則して柔軟に修景することが大切です。

素材・色彩

伝統的建物

基準

素材は伝統的素材や自然素材を用い、やむを得ない場合には、色合いや素材など周囲に違和感のない建材を用いる。

現存する伝統的建物に使われている素材は、平野郷の長い歴史の中で生まれ、風土になじんだもので、時間とともに味わいが増してきます。

基準

色彩はけげばしい色合いを用いず、まちなみに調和した明度・彩度を基調とする。

伝統的建物は、無彩色か茶系の色を基調としています。これらの色はまちなみに落ち着きを与えます。



伝統的な色合いや素材は、まちなみの表情を豊かにするとともに、暖かさを与えてくれます。

外観輪郭

伝統的建物

基準

伝統的建物の外観をパラペット等で覆わず、庇を復元するなど伝統的建物の輪郭を保全する。庭付戸建は、通りから見える部分が伝統的輪郭となるよう工夫する。

伝統的建物は屋根、庇などによって伝統的な輪郭が形成されています。これらが道路に沿ってつらなっていることで、平野郷の美しく連続感のあるまちなみ景観を形成しています。



パラペットを外し、伝統的な町家の外観輪郭を復元した例



道路に沿って伝統的建物の輪郭が連ち並び、美しく連続感のあるまちなみ景観を形成しています。

住んでいる人の心もつながっているみたいだね



屋根

伝統的建物

基準

切妻・平入り、和瓦葺きを原則とする。伝統的な屋根勾配（4寸5分～5寸）を基本とする。茅葺き町家についてはトタン葺きを可とするが、まちなみに調和した色彩・意匠とする。

平野郷地区の伝統的建物（主に町家）の屋根の形態には以下に掲げる特徴があります。壁面線の並びとともに、それらが道路の家なみの連続感・一体感をつくりだしており、美しいまちなみを構成する重要な要素となっています。

●切妻・平入り

道路に対して平行に棟を通した切妻屋根で、玄関が道路に面して設けられています。隣家と妻側を接して建てています。

●勾配屋根

屋根の勾配は4寸5分～5寸程度でそろっています。

●和瓦葺き

屋根瓦は、古くは黒色本瓦の和瓦葺きが基本となっていました。現在では棧瓦も見られます。また、茅葺きの町家も見られます。



和瓦葺きの屋根の勾配が揃うことにより、美しいまちなみが形成されています。



うだつ（袖うだつ）
町家の2階部分の正面両側につけられた袖壁で、防火や目隠しの役割があります。



角地で入母屋屋根にしているのもこの地区の特徴であり、まちなみに対する心づかいがうかがえます。

庇（ひさし）

伝統的建物

基準

できる限りオリジナルの形状へ復元する。華美な意匠とならないようまちなみに調和したものとし、伝統的な意匠を活用する。また、1階部分については、祭礼時などの空間演出に対応できるよう工夫する。

この地区における伝統的建物の大きな特徴として、1階部分の庇の出は建物の壁面線からおおよそ1～1.5mと深いことがあげられます。

そして1階と2階の庇の出による二重のラインによって美しく連続感のあるまちなみが形成されています。

また、深い庇を設けることによって、夏祭りの時にちょうちんがかけられるなど、まちなみに豊かな表情を与える軒下空間をつくりだします。



ほぼ同じ高さに設けられた庇によって、まちなみの連続感が保たれるとともに、いっそう強調されています。庇があるとちょうちんがより似合います。

庇の二重のライン、これが町家の美しさのポイント



祭りちょうちんが似合うまちなみ